

スーパーなまいにち。

イオンスーパーセンター

DATA

盛岡市菜園1丁目11-5
☎019-605-8800



2021 **2030年までの目標**

安心して暮らせるまち
次世代へつなぐ

イオンスーパーセンター(株)
代表取締役社長
矢木 健太郎



当社は各地の店舗や移動販売などのリソースを活用し、地域に根付いた形でSDGsの取り組みを広げています。そして、地域の皆さまが安心して暮らせるまちを次の世代の子どもたちに引き継いでいくことが目標です。今後も経営理念として掲げる「この地域の皆さまとともに、より豊かな未来を創造し続けます」を実現してまいります。

SDGsの取り組み



当社は、2005年に盛岡市に本社を構えて創業し、食料品、衣料品、家庭用品などが一度にそろうライフラインストアとして、地域の皆さまからご愛顧いただいています。創業時から「地域密着」を大切に、SDGsにつながるさまざまな事業を展開してきました。

例えば、2011年の東日本大震災の発生直後からスタートした移動販売は、当時店舗がなかった沿岸エリアの皆さまが、お買物にお困りだということから、一関市から生活に必要な商品をお届けしたことがきっかけです。2014年に釜石市と陸前高田市に店舗がオープンした後も継続し、災害公営住宅を中心に週6日、23カ所を訪問しています。

当社は、ナショナルブランド商品だけではなく、地域産品の販売にも力を入れています。現在、2500を超える東北の生産者さまと連携し、「じもの」野菜の販売を展開しています。昨年3月にコロナの影響で学校が臨時休校に



子どもたちが野菜の収穫や販売を体験する「産直朝採り企画」



陸前高田市の災害公営住宅で行っている移動販売。震災直後から続くこの取り組みは、地域の生活に欠かせないものになっている。2021年8月、同市柕ヶ沢

お買物を通じて地域密着 移動販売や「じもの」提供

なった時は、給食用に納品予定だったキャベツ2000個を買い取り、金ヶ崎店で販売しました。フードロスの解決になっただけでなく、生産者さまやお客さまに大変喜ばれました。

また、生産者さまとのつながりをいかし、夏休みには、子どもたちが野菜の収穫、出荷、販売体験をする「産直朝採り企画」を行っています。こうした取り組みが、子どもたちが地域の豊かさを感じながら成長する機会の創出になればと願っています。

私たちは店舗づくりを通して、地域の皆さまが安心して暮らすことができるまちづくりのお役に立ちたいと考えています。今後もお客さまの声に耳を傾けながら、日々のお買物を通じて参加していただける取り組みを提案し、SDGsにつながる活動を進めていきます。